
アケオ、メコト、ヨロ

会津遊一

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

アケオ、メコト、ヨロ

【Nコード】

N2023J

【作者名】

会津遊一

【あらすじ】

まあ、俺の話しを聞いてくれ。

ある日、地球は宇宙人に襲われたんだ。

奴等は強大な軍事力で、次々と地球を侵略していった。しかし、あの言葉が切っ掛けで世界が救われるのだが……。

まあ、俺の話しを聞いてくれ。

ある日、地球は宇宙人に襲われた。

強大な軍事力で、世界中の各主要都市が一斉に攻撃されたのである。勿論、全ての国家が黙ったままやられているワケは無く、持ち合わせている兵力で抵抗した。

しかし、銃弾も爆撃も砲撃も毒物も核攻撃さえも、宇宙人には通用しなかったのだ。

国連会議では議論が加熱した。

「もう我々に勝ち目はない。せめてアメリカ、ロシア、中国、インド、アフリカの土地を手渡して、残りを人類で分けられないか、交渉するべきだ」

「馬鹿な！ それはお前が極小国だから言えるのであって、私に国を捨てる事なんてできない」

「そーだ。それに、小さい土地に人類を全て移動できるワケは無い。必然的に殺さなければならぬ人種が出てくる」

「その時は、人種ではなく、貧乏人を殺せばいい」

「けしからん。それはお金持ちのアメリカ人は残して、他は殺せという意味にしか聞こえないぞ！」

「違う。優秀な遺伝子を残すために必要な区別だ」

「嘘くさい話した。そうやって世界を牛耳る腹積もりなんじゃないか。そもそも、あの宇宙人、本当は巨大国家が作り上げた兵器なんじゃないのかね？ 特に米露が怪しいぞ」

「馬鹿を言っちゃいかん。我々も大損害を被っているのだから、民主主義の銭野郎と一緒にされては困る」

「なんだと！」

「待て待て、落ち着きたまえ。それよりも宇宙人が交渉に応じてくれるという保証はないんだ。身内を疑っている暇はないぞ」

「それもそうだな。しかし、どうすれば……」

何も解決案が思い浮かばない一同は押し黙ってしまった。

結局、その国連会議では結論は出ず、宇宙人による侵略は続いたのである。

そして世界の半分以上の土地が奪われてしまった。

もう直ぐ年越したというのに人々は絶望し、打ち震え、自殺してい

く者が後を絶たなかった。

だが、ある時、生き残っていた各国の代表が緊急招集された。

「どうしたというのかね？」

「まあ、この映像を見て欲しい」

「今更足掻いた所でどうしようもだろう」

そう絶望していた人間も、放送されたビデオを見ると全員が声を失っていた。

「まさか……」

「その、まさかなのだよ」

画面には宇宙人が死んでいく映像が流されていたのだ。

人間が持っているどんな兵器でも殺せなかったというのに、バタバタと倒れているのだ。

「これは、どういう事なのだ？ 何が起こっているのだ？」

「死んだ宇宙人を解剖した報告結果によると、どうやら人間の肉声が駄目らしい。特定の音波を耳にすると脳がやられてしまうんだかとか」

「そんな、くだらない事で」

「ああ、私もこの事実を受け止めるので精一杯だよ」

「どうして、誰もそんな簡単な事に気が付かなかったんだ！」

「……突然、戦争が始まった事と、戦争中だから敵に話しかける奇特な奴が居なかったからだろう」

「しかし……そんな」

「ああ、もつと早くに気が付けば、地球が半分以上も乗っ取られる事はなかっただろうな。我々の同胞が死ぬ事も……」

全員がやるせない気持ちで頂垂れてしまったら、不意にその中の1人が手を上げた。

「そういえば、宇宙人の弱点を知った切っ掛けは、ある国の言葉だったと耳にしたのですが」

「ああ、日本の言葉だ。どうやら、一年に一回使うとされているらしく、それが最も効果的な言葉だと報告が来ている」

「そこで提案なのですが、その言葉を世界共通の挨拶にしませんか？ 隠れている宇宙人を燻り出すのに効果的だ」

「なるほど、それは名案だ」

「私も賛成だ」

「ああ、是非やろう」

人々は拍手喝采と共に、全員が賛同した。

それは世界が本当の意味で1つとなった瞬間であった。

今まで話していた死刑囚が、看守にこう付け足した。

「その言葉が、アケオ、メコト、ヨロ。つまり、あけおめ、ことよろというワケよ」

「なるほど」

「もしかしたら来年には、そんな宇宙人が攻めてくるかもしれないだろ。俺も、あけおめ、ことよろ、って言って協力するよ。だから、明日の死刑執行は延期してくれない？」

「ダメ」

「ですよー」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2023j/>

アケオ、メコト、ヨロ

2010年10月13日13時03分発行